

世代を超えて誰もが楽しめる音楽映画

笑いと涙による感動の物語

この映画の製作は、長野市からスタートします！

この作品は、実際にホームの老人たちに励まされて、いじめから立ち直ったマンドリンを弾く一人の少女とその母の愛と苦闘の物語です。

ここには、今日社会が抱える切実な問題、教育と家庭、老人と介護、福祉とボランティアといった誰もが真剣に向き合い考えなければならない内容が描かれています。

和田登氏が現実にあった事柄を、綿密な取材で小説にしましたが、その原作をさらに笑いと涙の感動的な内容で映画化しようとする企画です。

世代を超えて親しまれている歌や曲もふんだんに使い、音楽映画としても大いに楽しめます。

また長野市民、県民が参加する新しい映画づくりとして注目されています。

〈長編カラー劇映画〉

泣かないで、マンドリン

(仮題)

原作／和田登(文溪堂より刊行予定) 監督／根本銀二

★製作(上映)協力券の取扱いについて(お願い)

1枚1,000円(11枚綴り10,000円)の製作協力券の販売・普及に、ぜひご協力ください。

この協力券は、全国各地の上映会・試写会などでご利用いただけます。

★一般公開について

2002年11月頃から全国一斉に公開されます。
(製作協力券でご覧いただけます)

映画化にあたって

和田 登

私が最近痛切に感じていることは、世代と世代との間に断絶した層ができていて、それぞれがバラバラに存在していること。そのコミュニケーションの不在が社会をいびつにしている。私が原作・脚本にこめた想いは、ひとりの純真な少女が施設の老人たちから、マンドリンを介して励まされ、いじめを克服していくその筋道の感動的な姿である。

ここには豊かなコミュニケーションがあり、また彼女自身の成長がある。実際にあった出来事をもとに仕上げた作品であるが、映画化に当たっては、音楽・歌のもつ力を十分に發揮した楽しいものにしていただきたいと願っている。十代から老人世代までがいっしょに共有できる映画の誕生…。そんな、これまでにあまり例のなかった映画製作を期待したい。

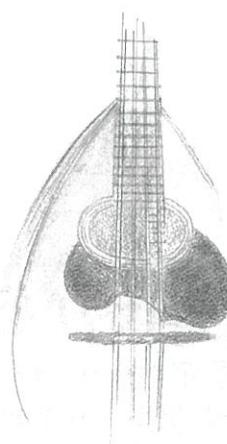
【ストーリー】

中学生の亜由美は、肥満であることを理由に執拗ないじめにあった。「死んでしまいたい」と考える時もあったが、唯一の慰めはクラブで覚えたマンドリンであった。二年生の夏休みに彼女は老人ホームの介護ボランティアに出掛けることになった。不自由な身体に軽い痴呆の老人たち、その中でニコニコと迎えてくれた民さんの存在は亜由美にとって忘れられないものとなった。

夏休みが終わってまた地獄の生活が始まった。「わたし、学校休みたい…」との言葉に母は驚愕し、その激しい気性はいじめグループと教師の前でぶつけられた。余りの迫力に彼らは圧倒される。一方、まわりからの薦めもあり、亜由美を逞しくするために専門の先生に就いてマンドリンをより深く習わせたり、あちこちのホームを巡って老人たちが喜ぶ歌曲を演奏するようになった。

高校に入学してからもクラブに所属しマンドリンに励んだ。そのうち、以前からずっと考えてきたこと——老人たちからもらった優しさと励ましへの感謝をこめた手づくりコンサートを開きたい、と思うようになった。

そしてコンサートは……。仲間や家族は……。また、ホームの民さんは……。



皆さん、詩織ちゃん、涼子ちゃん……
仲間のやさしさと大好きなマンドリンに励まされて
私は勇気と希望と生きる力をつかみました。

〈長編カラー劇映画〉

泣かないで、マンドリン

(仮題)

原作／和田登(児童文学者・長野市在住)

小説「泣かないで、マンドリン—15歳の旅立ち—」

製作／「泣かないで、マンドリン」製作委員会

製作協力／長野市ボランティア連絡協議会

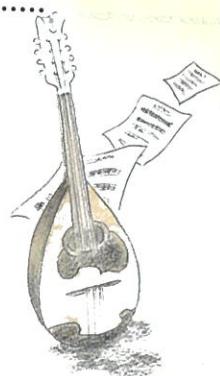
いじめに遭った少女と その母の愛と苦闘

四季折々の長野市近郊を舞台に

根本銀一監督が初メガホン



私を必要としてくれた…
いつも邪魔ものにされていた私に
“ありがとう”といってくれた
その言葉に
私は生きようと思った
あなた達のために……



●長野市から音楽映画の製作がスタートします●

■ロケ予定地……善光寺、長野駅前、千歳町、中央通り、権堂、千曲川など北信一帯。

■出演者募集……主要な出演者及びエキストラ参加者を求めます。

■趣旨に賛同し、制作・上映協力券の普及運動に協力いただけるボランティアを募ります。

製作／「泣かないで、マンドリン(仮題)」製作委員会、株式会社プロデュース・センター、有限会社長野映研

問い合わせ先／〒380-0805 長野市柳町45(長野映研内) ☎026-232-1228 FAX026-232-8387 E-mail eiken@ebony.nifty.com